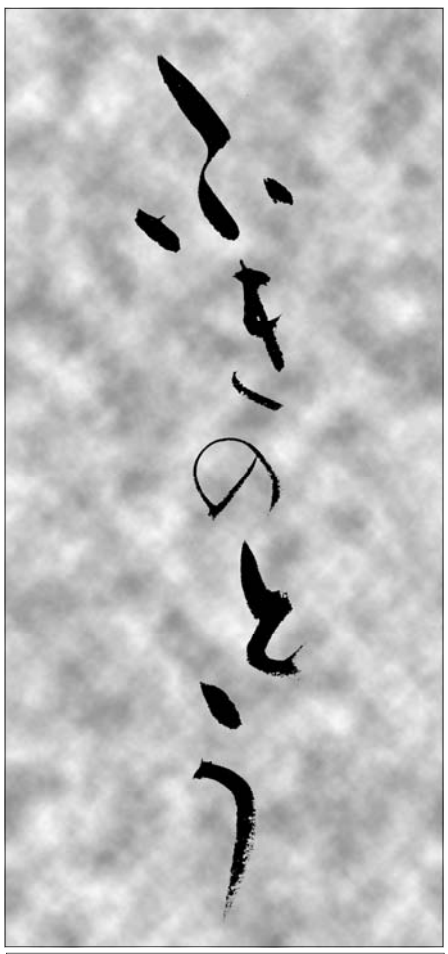

新宮つぼみ保育園年報 第5号
2015年(平成27年) 8月 発行
発行／編集
社会福祉法人 輔仁会 新宮つぼみ保育園
〒811-0111 糟屋郡新宮町大字三代944-8
［TEL］ 092-941-2233 ［FAX］ 092-941-2244
［E-mail］ s-tsubomi@kou.bbiq.jp
［ HP ］ http://www.hojinkai.ed.jp/s-tsubomi/

「子ども子育て支援新制度」

----- そのスタートがもたらしたもの -----

理事長／統括園長　大浦 純平

（園便り6月号と法人内報の記事を併せ編集掲載）

法人創立五〇周年を多くの皆様のご支援を頂戴し、言祝いで戴きました。心から感謝申し上げます。今後とも職員一丸となりより良い保育を目指してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

さて、国は「子ども・子育て支援新制度」に消費税増税分から七千億円の財源を準備し、「保育の質向上」・「職員処遇改善」の実現をとスタートしました。期待感満載の制度のはずがその効果をさして感じさせてもらえないまま四月を迎え、多くの疑問を役所に問い合わせても「国からの説明が未だ無いので……」との繰り返しでした。保護者の皆様にとっても入園申請の折、新たな用語に戸惑われていたようです。今年度はいろんな事にぶつかりながら慣れていくしかないのでしょう。

いま、私たち保育関係者は福岡市の保育関係補助金削減について頭を悩ましています。

今年の一月のこと、福岡市より「新制度の開始に伴い、これまで市単独補助として保育園の職員に出していた長時間保育手当・研修手当・被服手当の三手当を四月から廃止します。」と通告してきました。この補助金は正規職員へ月平均一万四千円程度支給することの出来た貴重な財源でした。

福岡市の言い分は、「新制度になり各園に支給する委託費は今までより多くなるのでその分で賄うように」とのことでした。

私ども福岡市保育協会はすぐに精査を始め、新制度の実態が明らかになってくるにつれて、増えるどころか条件によっては減少する場合も想定される事が判ってきました。

また、国は各自治体に対し、二月二四日に「新制度になってもこれまで各自治体で保育士の処遇を改善するために出していた補助金をなくすようなことはしないこと」と通告しています。

福岡市は「子育てしやすいまち」を標榜していますが、今回の削減は明らかにその主旨に逆行するものです。

漏れ聞くところによれば、福岡市は多くの借金を抱えており、その返済を重要施策としているらしく新制度になり収入が増えると勘違いされていた保育園は格好のターゲットにされた訳です。

当然のように、私どもは反対を表明し、福岡市当局との協議を繰り返してきましたが、一向に福岡市の姿勢は変わりません。そこで、私たちは心ならずも以下のような行動をとるに至りました。

▼先ず、陳情のための署名活動を実施することにし、全会員園に協力を求めました。▼五月二七日には記者会見をしマスコミに訴えかけました。しかし、それを追うように▼福岡市当局は我々の会見の直後に会見を行い、市の考え方を発表しています。▼早速、夕方にはその模様がテレビで流れましたし、翌日の朝刊では各社が記事にしました。殆どは両者の会見内容を併記していました。▼しかし、N紙は、『園長は基準の一・五倍の給与を取り、職員へは基準以下の支給だ』と根拠のない基準をあげつらった記事を掲載していました。このネタ元が福岡市の記者会見であることは容易に想像できます。▼ある園長は保護者から「あの記事が本当なら、あなたの給料を減らして職員に手当を支給すべきではないか、署名は撤回する」と言われたと嘆いていました。▼次いで、五月三〇日には天神の福岡国際ホールで「子どもと保育園職員の処遇を守る決起大会」と銘打って集会を開きました。そこには市議・各園の園長・職員・保護者代表が参加し共通理解を深めました。▼つぼみとさわらびからも園長・職員・保護者十二名が参加し、会場は九〇〇名を越す賛同者でいっぱいになり、今回の長時間・被服・研修の各手当削減に対し意見発表が行われました。▼しかし、意見発表者はN紙の記事に言及する用意が整わなかったのだろうし、フロアからも意見が出ませんでした。▼私は閉会間際に手を挙げ、「各保育園は市の厳しい監査を受けているし、市が指導している基準に従って園長も職員も給与額を決めて支給している」と、市議・職員・保護者に向かってこの記事は事実無根であることを訴えました。▼六月の市議会定例会では決起集会に出席した議員の内、四名から市当局へ補助金削減について質疑が行われました。▼市長答弁では今後、福岡市は有識者・保護者を中心に外部委員会を組織し今回の削減問題を論議してもらい、その結果を参考に市長判断で結論を出すとの姿勢を示しました。▼七月十日には保育協会は各園から集まった十三万四千名の陳情署名を福岡市に持参し副市長に手渡しました。▼そして、遂に八月五日、外部委員を集め「第一回保育所運営補助のあり方検討委員会」が開催されることになりました。

▼書き添えますが、法人としては三園の雇用条件を同一にするため新宮つぼみ保育園の職員にも何とか遣り繰りして同額の手当を支給をしてまいりました。福岡市の補助制度の在り方は新宮つぼみの職員にも影響することなのです。

以上が一連の顛末です。今後の展開がどうなるのかは判りませんが、良い結果が導き出されることを祈るだけです。『職員処遇を改善する』ことは、即ち、『保育の質を向上させる』ことにつながると信じています。

悩ましい一年になることでしょう、どうぞ、皆様のご理解とご支援を宜しくお願い致します。

開園から10年が経ちました

園長　大浦 まゆみ

11年度目の年となっています。

昨年度、記念すべき事がありました。10年度目にして初めて、父母の会が誕生したのです。9月20日、第1回の総会が開かれ議案が承認され、上畝地さんが初代会長に就任されました。以来、活動が始まり園の行事に対していろいろとご協力をいただいています、とても有難く嬉しいことです。

その父母の会の中で、10周年を記念して何かしたいとの声があがり、澤田さんを委員長とする実行委員会ができ、園とともに企画計画を進め、7月5日（日曜日）そぴあしんぐうにおいて開かれた「10周年記念同窓会」が実現しました。卒園児及び保護者の方々、旧職員など総勢で200名の人々が集まってくださり、手作りの会ながら、とても楽しく懐かしいひとときになりました。

思えば、平成14年暮れの新宮町の公募が始まりでした。多数の応募の中から理事長の熱い思いが通じて輔仁会が新設保育園を作ることに決定。健康福祉課、設計事務所、職員、建設会社とともに考え話し合い、近隣の方への説明会では反対や見解の相違に遭いながら数回を経てやっと受け入れて頂くなどした2年半の準備期間を経て、平成17年7月1日暑さ厳しい中、開園したのでした。

あれから10年、多くの方に支えられたから来れた10年でした。開園準備から始まり、常に真摯な思いを持って保育に携わってくれた歴代の職員、常に温かくご支援くださった保護者の皆様には、言葉で表せない感謝の気持ちでいっぱいです。そして、生き生きとした表情できちんと答えてくれる、成長した卒園児の姿を見ることは、大きな歓びです。

新しい住宅が建ち並び、人口が増え、どんどん発展する新宮町。その中で昨年度は定員30名の分園を開設、今年4月は本園の定員を30名増員。そのために園内を一部改修し、2階ホールの倉庫部分をステージに作り替えました。ステージの高さは低いのですが、幕や照明が効果的に使え、2月に初めて園内で行なった年長組の発表会では、客席の課題はあるものの、グレードアップした楽しい劇あそびができたと思っています。

これからまた、新たな年月を歩んでいくわけですが、何より大切にしたいのが、日々の保育です。

0歳児の頃より、私たちは気持ちを受けとめること丁寧に生活することを意識してきました。子どもたちがあそびの中で年齢にふさわしい力をつけ、年長組になると保育者や友だちとの関わりの中で様々な感情を味わい、心と感性が育まれるようにと願っています。そして、更にたくさんの、自分らしく生き生きと行動する卒園児たちの姿を見て歓びを感じたいと、心から思います。

これからも、新宮つぼみ保育園のことを、温かく見守ってくださいますよう、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

飛躍

父母の会 会長　上畝地 白馬

今年も夏になり、蝉の鳴き声が聞こえる季節になりました。夏といえば水遊び。子供達が暑い夏にプールで楽しく遊べるように、プールの設営のお手伝いをさせていただきました。新宮つぼみ保育園のプールは組み立て式です。父母の会で先生たちと一緒に組立て、綺麗に清掃してプールを完成させました。お忙しいところ、ご協力いただいた皆様ありがとうございます。これで子供達が楽しく水遊びの時間が過ごせます。

新宮つぼみ保育園も開園以来10年を迎え、記念行事として、7月5日に10周年記念同窓会を開催することができました。理事長先生はじめ、園長先生、これまで子供達を育てていただいた、先生方も参加していただきました。参加してくれた卒園生の、高校生や中学生の立派な姿を見ると、あの小さかった子供達が本当に成長したなと思うのと同時に、10年間の歴史をとても感じました。10周年記念同窓会には、卒園からお会いしていない子供たち、保護者の方も多く参加していただき、遠くは東京からも来ていただきました。10年間の懐かしい話と、楽しい思い出の話は尽きず、あっという間の楽しい時間が過ごせました。開催までご尽力いただきました皆様に本当に感謝申し上げます。次回開催は、20周年かな？それまで楽しい思い出を作っていきたいですね。

平成二十七年度　行事

本園

4月 2日 新年度説明会★
4日 親子保育★
18日 健康診断
23日 4月の集い(端午の節句)
30日 歯科検診（27日と分けて実施）
5月 13日 5月の集い
21日 父母の会総会☆
23日 一日保育士月間★
6月 6日 うめ懇談会★
11日 6月の集い
13日 もも懇談会★
20日 年長懇談会★
7月 3日 青組 お泊まり保育
4日 10周年記念同窓会☆
5日 7月の集い(七夕)
7日 8月の集い
8月 6日 9月の集い
9月 10日 10月の集い
10月 1日 運動会★(予定)
17日 赤・白組遠足
未定 青組遠足(三日月山登山)
未定 健康診断
11月 一日保育士月間★
12日 11月の集い
21日 リトミック公開保育★
未定 歯科検診
12月 3日 12月の集い
13日 法人合同音楽祭★(青組のみ)
17日 地域交流会
26日 もちつき
1月 8日 1月の集い
16日 親子保育
30日 年少発表会★年少懇談会★
2月 3日 2月の集い(節分)
20日 年長発表会★
27日 年長懇談会
3月 3日 3月の集い(桃の節句)
9日 年長組遠足(マリンワールド)
20日 卒園式★
23日 入園式(新年度入園児)
未定 年少お弁当の日

分園

4月 23日 健康診断
25日 親子保育／新年度説明会／懇談会★
5月 27日 歯科検診
6月 一日保育士月間★
10月 24日 親子保育★
未定 健康診断
11月 一日保育士月間★
未定 歯科検診
3月 5日 発表会／懇談会★

10周年記念同窓会

懐かしい笑顔に会えて…

主任　藤井 由理

新宮つぼみ保育園は、今年度7月1日で開園してまる10年を迎えました。10周年のお祝いに今までの卒園児、保護者の方、旧職員をご案内し7月5日（日）そぴあしんぐう多目的ホールにて10周年記念同窓会を行いました。同窓会には、総勢200名を数えるたくさんのお客様が集まってくださいました。懐かしい方々との再会に嬉しくて思わず手を取り合うやら、子ども達の成長ぶりに驚くやら…本当に10年の月日が経つのは早いものです。見違えるほど大きくなった第一回卒園児の高校一年生、それに続き中学生や小学生92名もの子ども達が出席してくれました。また、遠く県外から駆けつけて来てくれた家族もいました。卒園児に向けてのインタビューの時にはみんな照れながらも中には得意なダンスをしっかり答えてくれ、披露してくれた子もいました。旧職員とは久しぶりの再会で近況の報告も聞け、元気な姿に安心しました。

会場のあちこちで話が弾み、軽い食事をしながらの歓談はあっという間に時間が過ぎてしまいました。会場は笑顔と笑い声でいっぱいとなり、賑やかな同窓会となりました。

現職員もこの日に向けて練習した音楽劇を披露しました。そして最後は子どもも大人も「ドレミのうた」の大合唱となり会場が一体となりました。

「楽しかった」に尽きる

10周年記念同窓会実行委員長　澤田 秀平

7月5日に10周年記念同窓会を開催し、無事に終える事が出来ました。実行委員会発足から当日に至るまで私自身「楽しかった」この言葉しか思い当りません。園長先生の笑い声の絶えない打合せ。普段見れない一面を見せてもらえました。招待状が届いておらず友達から教えてもらい、一人で園を訪ねて来た中学生。心を打たれました。

快く？引受けて、短い期間で尽力してくれました実行委員のお蔭だと心から思っております。

今回、実行委員長を引き受け、様々な準備を重ねる中で、新宮つぼみ保育園のこれまでを振り返り、多くの人の支えによって、園も子供達も保護者も一緒に成長してきたんだなと、実感しました。

人は時に、現在の自分達がいかに多くの人に支えられているかという事を振り返り感謝し新たに自分の役目を自覚し、改めて決意を固める作業が必要なのかもしれません。そんな貴重な体験をさせていただき感謝しております。

参加者の声

・卒園して以来の友達や先生に会えてとても懐かしかった。
・卒園した子ども達を見て年々成長していく様子が見て取れて微笑ましい気持ちになった。
・交流が少なかった同期の保護者の方とお話ができるよい機会となった。
・こんな機会がないと卒園児や旧職員に会えなかった。みんなに会えてとても嬉しかった。
・思い出話に盛り上がりスライドショーや職員の劇もあり、とても楽しい時間が過ごせました。
・職員の劇が面白くて、楽しかった。
・最後みんなで大合唱になって新宮つぼみらしいと思った。

保育園の今 ～改装工事を終えて～

副主任　中岡 千晶

昨年度開園した分園の2歳児は3歳児になると本園に進級して来ます。本園の児童数増員の為、今年度の4月から年長クラス「わらび組」を増設しました。朝の受け入れ室として使用していた「さくら」の部屋が、改装工事を経て「わらび組」に生まれ変わりました。室内はロフトや手洗い場が付き、個人棚が設置され、あっという間に年長組の部屋に変身しました。四クラスになり年長全体の人数は増えましたが、子どもたちは生活の流れがわかり自ら行動しています。それぞれのクラスで好きなあそびをみつけ、夢中になって遊ぶ姿は今までと変わりありません。現在わらび組では、ブロックガラスに緑のカーテンを作ろうとあさがおを栽培中です。

そしてもう1つ、昨年度、大きな工事が行われました。たんぽぽの部屋（遊戯室）に舞台が出来たのです！今まで倉庫だった場所を舞台にする為に、倉庫の新設も行われました。舞台で発表会をする時の効果を考えて、スポットライトも取り付けられました。今まではそぴあしんぐうの多目的ホールをお借りして発表会をしていましたが、子どもたちにとっては毎日練習に通うという負担がありました。いつも生活している保育園の中で安心して発表会が出来るのはとても嬉しいことです。

又、今後倉庫になった壁の部分に壁画を制作することになりました。大きな大きなキャンバスにみんなで絵を描きます。どうぞ楽しみにしてください。卒園された皆さん、少しずつ変わっていく保育園を見てみませんか？

いつでも遊びにきてください。

平成26年度 新宮つぼみ保育園決算状況　（単位 円）

【 資金収支計算書 】

事業活動資金収支	保育事業収入	170,766,470
	経常経費寄附金収入	0
	受取利息配当金収入	38,715
	その他の収入	3,065,008
	事業活動収入計(1)	173,870,193
	人件費支出	114,770,211
	事業費支出	21,311,273
	事務費支出	12,727,685
	支払利息支出	495,000
	その他の支出	2,742,714
	事業活動支出計(2)	152,046,883
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	21,823,310
施設整備等資金収支	施設整備等収入計(4)	40,876,000
	施設整備等支出計(5)	48,846,336
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	−7,970,336
その他の活動資金収支	その他の活動収入計(7)	0
	その他の活動支出計(8)	13,406,715
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	−13,406,715
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)		2,362,595
前期末支払資金残高(11)		16,375,970
当期末支払資金残高(10)+(11)		18,838,565

【 貸 借 対 照 表 】

資産	流動資産	26,913,165
	固定資産	254,920,184
	基本財産	159,502,809
	その他の固定資産	95,417,375
資産の合計		281,833,349
負債	流動負債	11,165,064
	固定負債	27,000,000
	小　計	38,165,064
純資産	基本金	10,000,000
	国庫補助金等特別積立金	150,532,294
	その他の積立金	37,500,000
	次期繰越活動収支差額	45,635,991
	小　計	243,668,285
負債及び純資産の合計		281,833,349

平成27年度 職員構成
（7月20日現在44名）

理事長　大浦 純平
園　長　大浦 まゆみ

新宮つぼみ保育園 本園

主　任　藤井 由理
副主任・わらび　中岡 千晶
もも1　中村 紘子
　矢野 省子
　宇佐美 峰子
もも2　大神 華織
　佐野 真弓
　永末 映里
　松本 美奈子
う　め　有隅 邦親
　小宮 美紗
　山口 恵子
年少フリー　藤原 順子
　増丸 伴美
　渋谷 佳子
　馬場 小純
　藤野 静江
　日野 純子
すみれ　後藤 千里
れんげ　土谷 賢吾
つくし　前山 世李香
　高野 千代
年長フリー　夷 道子
　片山 歌織
給食室　小祿 由香利
　桐島 知子
　脇谷 浩美
　則本 由美子
　藤原 久美子
　徳永 まゆみ
　中村 恵美子
　入口 めぐみ
事　務　大浦 有平
用　務　内野 和喜

新宮つぼみ保育園 分園

分園主任・もも　中村 文
　古野 真子
　北村 知子
　今泉 朱香
う　め　磯村 玲子
　村上 沙希
フリー　長野 美由喜
　福岡 寿子
　多以良 すみ子

寄せられた意見・要望（平成26年度分）

受付日	申出者	受付内容	解決結果
7月	近隣住民	夕方7時前頃、芝生の手入れをしていた業者がブロワーを使用したところ、「(音が)うるさい、時間を考えろ」と隣のマンションベランダから怒鳴られた。	すぐ作業をやめ、その場でマンションに向かって業者ともども「すみませんでした」と謝罪する。その後重機を積む際も音がしないように遠くまで動かしてから行った。6時以降は騒音が出ないように気をつけることとする。

分園の一年

分園主任　中村 文

昨年4月に開園し、一年が過ぎました。0・1・2歳児30名の小さい規模の保育園ですが、本園での保育方針を元に日々の生活を大切にしながら、室内あそびの充実を常に考え、各年齢でのコーナーづくりなども工夫してきました。天気の良い日は園外へと出かけ、電車やバスを見たり、近くの公園で遊んだり、夏はビニールプールで水遊びをしました。小さな子どもも達ですが日本の伝統行事を少しでも味わえたらと思い、七夕には笹を飾り節分には鬼のお面に豆をまきました。3月の発表会では、リズムあそびや模倣あそび、簡単なお話あそびをし、各クラス保護者の前での発表会を行うことができました。また、一日保育士月間や親子保育などの保護者参加の行事も取り入れ、園での生活や友だちとの関わりを知ってもらいたいと思っています。親子のふれあい遊びを楽しみました。いろんな取り組みを通して保護者の方もわが子だけではなく、いつの間にかみんなの子と仲良くなり、大きな家族のような関係ができ、和気藹々とした雰囲気を感じられます。

そして4月からは“大きな保育園に行こう”と時々足を伸ばして本園へ行き、園庭で砂あそびをしたり、餅つきなどにも参加しました。3期には本園の子どもたちと一緒にあそんだりと、進級する事に期待を持ちながら、3歳児（あかぐみ）へと巣立っていきます。今では私たちも時々本園へ行き、大きくなった子ども達の姿を見ることが楽しみです。

これからも分園という小さい集団の良さを生かし、日々の保育の充実を大切にしながら、0・1・2歳の幼い子ども達一人ひとりとしっかり向き合っていきたいと思います。

トピックス

動き出した父母の会

父母の会が発足し、約半年が経ちました。今年度から父母の会の活動も本格的に始まり、最近では、創立10周年記念事業やプールの設営にも父母の会として携わって頂きました。

50周年記念事業

輔仁会創立50周年記念事業の一環として1月11日に福岡市国際会議場にて三園合同音楽祭を行いました。子ども達は鍵盤奏「あめふりくまのこ」と、うた「うみ」「小さいあきみつけた」「雪のぺんきやさん」を堂々と披露してくれました。